

兵庫NIEニュース

第61号

発行 兵庫県NIE推進協議会 〒650-8571 神戸市中央区東川崎町1-5-7 神戸新聞社内

E-mail hyogo-nie@kobe-np.co.jp HP http://www8.kobe-np.co.jp/nie/hyogo/

TEL (078)362-7054 FAX (078)362-7424

▼生徒の感想 橋花音見 見聞いて自分が選んだ記事「一人一人違う意見を持つことで、それをみんなで共有することは面白いし、とても大切だと思った」、佐野風菜さん「みんなの意勉強になつた」

模造紙に共感や疑問などの「つぶやき」を書き込む生徒たち=尼崎市大庄北1



いじめ自殺、あおり運転などテーマに

活発な話し合いができる良い工夫はないものかと模索していたところ、NIE全国大会宇都宮大会で、ことばの貯金箱「夢」プロジェクト代表、渡辺裕子先生の「つぶやきNEWS」に出会った。このワークショップに参加し、早速私の学校でやつてみたい! と思ったことから、NIE公開授業をさせていただくことになった。

この授業をするにあたって最も注意したことは時間配分である。記事の紹介、つぶやき、対話、活動の振り返り

中嶋 勝(尼崎市立大庄北中学校主幹教諭)

一以上の活動を適切な時間で、なつかつ授業時間内にすべて終えられるかどうか。それによって学びの質が大きく左右されると考えたからだ。

まず初めに、授業の「めあて」「ゴール」を明確にして、授業の流れを提示する。この活動は何のためにするのか、かつては、生徒たちの取り組む姿勢も変わる。新聞を使った今回の授業は、話し合いも活発になり、考えを深めあうことができたと実感しているが、決められた教科の時間数の中で新聞を使用することの課題を克服しなければならないと痛感した。これからも新聞を活用しながら、生徒たちが学ぶ喜びと楽しさを実感できる授業作りを模索していきたい。

実践指定校10校を募集

兵庫県NIE推進協議会は、2020年度のNIE実践指定校を募っている。対象は県内の国公私立小・中・高校と特別支援学校で、学校長の承認が条件となる。

19年度の指定校は20校。このうち、20年度も継続する学校を除き、新た

に10校を募集する。応募多数の場合は地域や校種を考慮して選考する。

指定期間は原則2年で、日本新聞協会と連携した取り組み。各実践指定校は県内で発行されている日刊6新聞を各1部ずつ、実践教諭の人数に応じて、4ヶ月または2ヶ月、無料で提供される(英字新聞や小学生向け新聞への変更可)。記者派遣事業も

利用できる。

NIE実践について説明するオリエンテーションがある。指定校は年度末、同協議会が発行する冊子用の実践報告書(A4判4枚)と同新聞協会への報告書(A4判1枚)を提出する。希望校は兵庫県NIE推進協議会事務局(078-362-7054(事務局レベルの締め切りは20年2月29日))

尼崎・大庄北中で公開授業

NIE活動の一環として、興味のある新聞記事を持ち寄り、感想や意見を出し合って対話を深める国語の公開授業が9月13日、尼崎市大庄北1の大庄北中学校であり、3年生34人が参加した。2019年度のNIE実践指定校による公開授業の第一弾。

記事持ち寄り意見交換

尼崎市教委の「マイスター」教員による公開授業研修講座」と兵庫県NIE推進協議会の共催で行った。同校は2018年度から日本新聞協会のNIE実践校に指定されている。

授業は、中嶋勝主幹教諭が担当し、新聞を通じてメディアリテラシーを学ぶ計7回の授業「情報を読み解く」のうち3回目として行なわれた。生徒は4人一組の班に分けられ、あらためて考

紙に貼り付け、余白に各自が共感や驚き、疑問などの「つぶやき」を書き込んだ。

時間配分に細心の注意

授業を終えて

時間配分に細心の注意

を読み返し、あらためて考

えを班内で発表した。

西宮市立浜脇中学校・波谷仁基督教徒の「自分に」記事に感想を書き込むことで、意見交換をしていく。今後は、意見交換が実に主体的に取り組んでいる姿が印象的だった。「学生が実際に意見交流し聞きあうところが参考になつた。下優子教諭

私の授業でもNIEノートぶ授業展開の中で、新聞記を通して、記事の感想を発表している。今後は、意見交換が実に主体的に取り組んでいく。それが印象的だった。「学生が実際に意見交流し聞きあうところが参考になつた。下優子教諭

【県立柏原高校】

神戸新聞丹波篠山支局の金慶順支局長が新聞記者を目指して3年生35人に講演した。

2018年7月、西日本豪雨による丹波地方の被害を取材した体験などを通じ、「頑張っている人」「困っている人」を取材して知らせたい」と強調。紙面だけでなく大手二



「10年後に現在の業種と形を変えていない業種はないと思ふけど、本質を見失わないように仕事に励みたい」と話した。

▼生徒の感想 大中藍昇(さわらかず)

（9月24日）
「読まるために工夫をしの取り組みをもつと読みたい」、由良汐音さん「記者がどんな思いで書いたかを考えながら記事を読みたい」

【県立武庫丘総合高校】

朝日新聞阪神支局の西見誠一郎局長が「SNSといじめ」をテーマに、全校生約100人に講演した。



朝日新聞が2012年に連載し反響を呼んだ「いじめられている君へ いじめている君へ いじめを見ている君へ」などを題材に、いじめの構造や、会員制交流サイト(SNS)上で起きやすいトラブルなどをについて話した。著名人のインタビュー記事を紹介しながら、「ネットは葉がとんがりやすい」「いじめは『遊びのつもりだった』では通らない」「いじめは犯罪。それをだまっていることは共犯になる」と話した。

（10月16日）

▼生徒の感想 佐藤光綺(さとうひかる)
（2年）「いじめの傍観者にならない決意を新たにした」、中村英明さん（2年）「『いじめられたら逃げてもいい』との言葉が心に響いた」



【加古川南高校】

読売新聞姫路支局の米井吾一郎局長が「論文のテーマ選び」と題し、1年生約240人に講演した。

同校では、生徒が自由テーマで書く課題研究論文に取り組んでいる。講演では、首里城（那覇市）の火災や神戸市

の組み体操論争を例に、「大きな事件が起きたら地元ではどうなのか。逆に、身近な話を発端に他の地域はどうなの

か調べるのも一つの方法」などと話した。「その道に詳しい人に話を聞いたり、自分でアンケート調査したりして自分なりに集めた材料から『答え』を考えることが大切」と話した。

（11月8日）

▼生徒の感想 十市孟(じゅうじ)
（3年）「専門家の話をのみにせず、自分で考え方を導き出すことが大切だとわかった」、溝口楓月さん「新聞への意識が変わった。なぜ記事にしたのか考えながら読みたい」

記者の言葉が学び喚起

兵庫県教委高校教育課指導主事

上月さやこ

学校に新聞記者が来る。それだけで子どもたちはワクワクし、好奇心が生まれ、主体的な学びへつながっていく。そんな好循環のきっかけとなるのがNIE記者派遣事業だ。

令和という新時代の主役となる子どもたちには、急速な社会変化を前向きに受け止め、予測不可能な未来社会を生き抜く力が要る。新学習指導要領は、主体的・対話的で深い学びを実現し、問題を見いだし解決策を考えたり、思いや考え方を基に創造したりする過程を重視した学習の充実が求められている。

現役の記者の生きた言葉は、主体的な学びを喚起し社会の課題に目を向ける契機となる。世界で活躍する記者の体験談は、子どもたちの想像力をかきたて世界を広げることにつながる。今後も記者派遣で充実した学びがもたらされることを期待したい。

2面から続く

や、好奇心のアンテナを張つて情報を集めることの重要性に触れ、「匿名ではなく、責任を持つて書こう」「書く力

を持つて、自らの発信力を高めてほしい」と呼び掛けた。

さらに、「新聞を読んでさまざまな意見を知ることで、表現の幅を広げられる」と強調した。

（10月31日）
「まず、大事と思うところをズバリ書く」という言葉が心に響いた。井尻夏澄さん「間違った内容の文を書くと信用を失うのだとあらため思つた」

▼生徒の感想 関根茉那さん（3年）「一つの記事に、多くの人がかかわっているのを知つて、奥が深いと思った」、鳴澤翼さん「事実の裏付けを十分に取必要があることが事実の裏に講話した。

新聞などに国内外のニュースを配信する通信社の役割を説明。「新聞には世の中で起きていることや、知つておいて掲載されている」と話

し、生徒たちに「新聞をめぐつていることが分かった」

る記事を読んだのがきっかけだし、特派員ルポからはまだ見ぬ世界の国々への興味が膨らんだ。

神戸市立山田中学校の授業でも、伝えられたかった点の一つは「新聞に親しむことで、何気なく目にした記事、写真がこれまで興味が無かつた未知の世界へといざなう。拙い授業によって、こんな経験をする生徒が一人でも増えてくれたら、とてももうれしく思う。



▼先生の感想▼

兵庫県立川西明峰高校・中川透校長 「まわしよみ新聞」は誰でも手軽にできるすごいNIEメソッド。グループでわいわい意見交換しながらするのが楽しかった。
姫路市立豊富小学校・川村かおり教諭 まわしよみ新聞がよかつた。学校で行ったところ「また作りたい」「みんなで協力できた」と児童に新しい学びが広がった。

兵庫から4個人と7校受賞

日本新聞協会は11月25日、家族や友人と新聞を読み、話し合つてまとめた感想文が対象の第10回「いつしょに読もう!新聞コンクール」の最優秀賞に、福岡県柏原町立柏谷中央小5年、清武琳君ら3人を選んだと発表した。兵庫県内からは2260点(前年比54点増)の応募があり、個人の奨励賞に4人、学校奨励賞に7校が選ばれた。国内外の小・中・高・高生から計2万7561点の応募があった。県内の入賞は次の通り。(敬称略)

5面に続く

大阪で近畿フォーラム 兵庫から過去最多35人

たきのや 養父・建屋小が実践発表

「近畿NIEフォーラム」(日本新聞協会など主催)が8月20日、大阪市北区の朝日新聞大阪本社で開かれた。近畿各府県の教員や学生ら約90人が現場での実践に触れ、ワークショップ「まわしよみ新聞」に参加した。隔年開催で9回目を迎える今回は兵庫色の強い内容で、兵庫からはNIEアドバイザーや実践指定校などの教員、教委職員、子育てグループ講師、「まわしよみ新聞」を実践する新聞販売店所長、一般参加者ら、過去最大の約35人が参加した。

冒頭、兵庫県NIE推進

協議会の秋田久子会長がNIEは民主社会を作り、子どもの未来のための活動。推進協として広報に力を入れ、今後も、子どもたちが主体となる新企画を提案していく」と、いすれも大阪市北区中之島2

●養父市立建屋小学校の安本由香教諭
ソーン」の発表(「まわしよみ新聞」に取り組む参加者)

1週間の英字新聞を月曜～日曜の順に並べるゲーム!! 養父市建屋(撮影・山畠由美)



(兵庫県NIE推進協議会事務局)

実践発表では、養父市立建屋小学校の安本由香教諭が、ゲームを通じて英語を学ぶ授業「イングリッシュマラソン」を紹介。同協議会事務局長が児童にふんして助手を務めた。参加した教員から「学校で提案して貢献さんが指導。参考事例を紹介し合い、壁新聞にまとめた。新聞は「新元号・令和発表」「令和スタート」などの紙面も含め、全国紙、全国各地のブロック紙、地方紙を使った。

「まわしよみ新聞」は、自分なりの考えが醸成されると強調した。

壁新聞を作る過程で、話題を共有する。発案者で「NPOまちらぼ」代表の陸奥賢さんが指導。参考事例を紹介し合い、壁新聞にまとめた。新聞は「新元号・令和発表」「令和スタート」などの紙面も含め、全国紙、全国各地のブロック紙、地方紙を使った。

ゲームを通じて英語学ぶ 建屋小

みたい」などの声も上がり、好評だった。

NIE活動の一環として、養父市建屋の建屋小で、NIE推進協議会の提案を通じて英語を学ぶ授業「イングリッシュマラソン」が行われた。全校児童44人が入れている。

NIE活動の一環として、養父市建屋の建屋小で、NIE推進協議会の提案を通じて英語を学ぶ授業「イングリッシュマラソン」が行われた。全校児童44人が入れている。

NIE活動の一環として、養父市建屋の建屋小で、NIE推進協議会の提案を通じて英語を学ぶ授業「イングリッシュマラソン」が行われた。全校児童44人が入れている。

校で児童と教員に英語に親しみでもう試み。兵庫県NIE推進協議会の提案を考えるジグソーパズルなどを6年才木啓輔君は、外語指導助手(ALT)キャティ・ムーアさん(24)が出

用意され、英字新聞を活用したものが自立った。同じく6年田村千奈さんは「キヤティ先生の発音を聞いてアルファベットを1文字ずつ並べて単語にするゲームが楽しかった」と話した。坂本和宏教諭(53)は「レベルの高いゲームもあったが、児童たちは十分こなしていた。英語力が身についてきたと思う」と話していた。(兵庫県NIE推進協議会事務局)

深い対話を育むNIE

宇都宮の全国大会に1100人

多彩な実践発表、公開授業



「新聞で育む深い対話」をテーマに行われたパネル討論=宇都宮市明保野町

▼先生の感想

兵庫県立神戸聴覚特別支援学校・齋藤治教諭 同僚3人と参加した。スクラップするワークショップで、新聞を使った共同的な学びや、対話の心地よさを体験できた。
姫路市立豊富中学校・井上佳尚教諭 栃木県の義務教育学校による取り組みを観察し、9年間の系統立てた指導や、新聞を活用した深い学びに新たな可能性を感じた。

数学と社会 新聞で結ぶ

栃木の臼井教諭が発表

初日は、作家刈谷夏子さまで育む深い対話がテーマだった。大村さんが戦後間もない時期に新聞記事を活用して、子どもの考える力を伸ばすことを目に向ける機会になつて、自分の考えを広めたり深めたりすることを紹介し、「新聞には『立てるのか』という問い

初日は、作家刈谷夏子さんで育む深い対話がテーマだった。大村さんは「インターネットで情報を得ることが多いが、新聞はいろいろな記事が目に入る。知らない間に、文部科学省初等中等教育局の小栗英樹教科調査官は、「対話を手掛かりとしたことや興味のなかつたことに目に向ける機会になつた」とし、妹の小学4年生になったときに、新聞は「新聞は繰り返しがボリュームになる」と指摘した。

次日は、作家田中茂典（

）で育む深い対話がテーマだった。大村さんは「新聞は、クラップすると、先生がコメントを返してくれる。他の人の意見を聞くことがで

11月、東京で開かれる。(兵庫県NIE推進協議会)

本年度の防護が可能になる事務局長三好正之

来年も第25回全国大会は

開催される

。

第24回NIE全国大会(日本新聞協会主催、下野(しもつけ)新聞社など主管)が8月1、2日、宇都宮市で開かれた。2020年度以降、「主体的・対話的で深い学び」を重視する新学習指導要領が小学校から順次全面実施されることを踏まえ、大会スローガンは「深い対話を育むNIE」。全国から教員や新聞社、通信社の関係者ら約1100人が参加し、多彩な実践発表や公開授業が行われた。

4面から続く

いっしょに読もう新聞コンクール

【学校奨励賞】

尼崎市立天庄北中、六甲学院中、伊丹高、加古川西高、神戸鈴蘭台高、御影高、武庫丘総合高

会副会長は19歳】を読んで

【特別支援学校】

文章講座を開催

推進協事務局長

「自分の思いを文章で表現する」をテーマにした講文に、希望者30人を対象にテーマを意識しながら書くことを呼び掛けた。

結果として、希望者が30人を対象にワークショップを行った。4人一組の班に分かれ、各自が気になった記事を選んで紹介。A3判の用紙に貼り付け、余白にその記事を選んだ理由、ほかの人の問題や解法を記し、寺日本新聞協会のNIE実践に奉納したものがある。校に指定されている。講演

会の三好正文事務局長の話を聞いた。

同校は2018年度から日本新聞協会のNIE実践に奉納したものがある。校に指定されている。講演

用紙には記事に対し、共感したり、疑問に思つたりしたことを書き込んだ。

3好事務局長は、採用された新聞投書の良い点を考へたり、エッセーに見出したこと」、「相手に尊敬の念を抱くこと」と語った。

2好事務局長は、「相手に尊敬の念を抱くこと」、「相手に尊敬の念を抱くこと」と語った。

3好事務局長は、「相手に尊敬の念を抱くこと」、「相手に尊敬の念を抱くこと」と語った。

【奨励賞】福留悠斗（姫路市立糸引小5年）

【神戸新聞6月29日付夕刊「木製ストロー高い評価」を読んで▽広瀬幸喜（尼崎市立天庄北中3年）】毎日新聞7月30日付朝刊「難病爆の図語り伝える」を読んで▽田中愛子（御影高1年）】神戸新聞8月16日付夕刊「自治・貢ぐ医師の道」を読んで▽田中選良（加古川西高1年）】

【尼崎市立糸引小5年】毎日新聞7月30日付朝刊「難病爆の図語り伝える」を読んで▽田中愛子（御影高1年）】

【尼崎市立糸引小5年】毎日新聞7月30日付朝刊「難病爆の図語り伝える」を読んで▽田中愛子（御影高1年）】

【尼崎市立糸引小5年】毎日新聞7月30日付朝刊「難病爆の図語り伝える」を読んで▽田中愛子（御影高1年）】

人権問題新聞に学ぶ

高砂・鹿島中でワークショップ

新聞を題材に人権問題を考えるワークショップが、月29日、兵庫県高砂市阿弥陀町阿弥陀の鹿島中学校で開かれた。生徒たちは、いじめや差別を身近な問題として考えた。

講師は同校元校長で、兵庫県NIE推進協議会の田中茂典コーディネーター。徒たちから、人種差別や女性差別、障がい者差別、高齢者差別などがあがつた。

田中コーディネーターは



「人権とは何か」「どんな差別があるか」を尋ね、生徒たちは、人種差別や女性差別、障がい者差別、高齢者差別などがあがつた。

飲食店の客を直撃し、体を

が嫌なことを、共有でき

切な取材をしたとして批判されたテレビ番組の記事を取り上げた。お笑い芸人が

が嫌なことを、共有でき

模造紙に書き込んで発表した。

このワークショップは7

月5日、神戸市中央区のよみうり神戸ホールで開かれました。「2019年度NIE兵庫セミナー」(兵庫県NIE推進協議会主催)でも、児童生徒役の教員ら約50人が対象に行われた。

(兵庫県NIE推進協議会事務局)

田中茂典コーディネーターは、「たとえ本人が構わなく

タ一は生徒たちに人権を脅

ても周りの人が不快に思う

問題掛けた。

山元ひなたさんは「いじめ

は絶対だめ。みんなが楽し

く過せる教室にしたい」と話した。

△

兵庫県NIE推進協議会の秋田久子会長が10月29日、神戸市灘区篠原伯母野

に誕生日を迎えた。

かすとほどうじうじとかを問いただす。山元ひなたさんは「いじめは絶対だめ。みんなが楽しく過ごせる教室にしたい」と話した。

大学で講義 神戸松蔭女子大

若者は見ている」など6点から1点を選び、投稿者が人権意識の啓発にもなり、感想を共有することに書いた返事を読み上げた。秋田会長は「返事を書いて、感想を共有すること

が人権意識の啓発にもなる」と強調した。

NIE春夏秋冬

新聞の著作権をめぐつて

今年7月にあった「NIE兵庫セミナー」で新聞記事を利用したいので、新聞各社に記事の2次利用の許諾を申請しました。

各社にはおしなべて知的財産を担当する部署があり、担当者に電話で利用許諾の方法を教えてもらうことから始めた。各社でフォームは違っているが、2次利用申請用紙にセミナーの案内チラシを添付してメールかファックスで申し込みよう説明を受けた。

教えて申請すると、どの社も田中コーディネーターに促され、模造紙に人権を脅かす事例を書き込む生徒たち=鹿島中学校

翌日までに許可してくれた。ただし、記事の利用は本目的のみで1回限りだ。

学校で先生が新聞記事を授業の教材や資料として印刷して配布したり、テスト問題に日朝刊に児童(生徒)の写真やコメントを交えて記事が掲載された。件の校長がこの記事をコピーして先生方に配布した

ことはどうだろうから始めた。これは大変ありがたいことだ。しかし先生方が集まつて授業研究をする会などで新聞記入法(詳しく述べ)などを記入し、セミナーの案内チラシを添付してメールかファックスで申し込まれた通りに書類をそろえて申請すると、どの社も



新出生前診断について
考える学生ら=神戸松蔭女子学院大学

◆県NIE推進協から学校へ講師を派遣します

NIEについての校内研修や新聞を活用した授業、先生への説明など、講師を派遣します。兵庫県NIE推進協議会事務局☎078・362・7054までお問い合わせください。